

## 「運営意見交換会」の廃止を許さないぞ！

10月28日 団体交渉に立ち上がろう！

☆ 五條部長、「運営意見交換会」一方的に廃止の提案 → 団体交渉で追及へ！ ☆

7月実施の「運営意見交換会」で、10月に来期に向け「運営意見交換会」を開くとしていたことから、日程調整の申し入れを行ったところ、**五條運営部長は、約束を一方的に破棄**して、運営意見交換会は開催しないと通告してきました。しかし、そもそも、この会は会社からの申し入れで始まったもので、しかも前回、五條・森永両部長は次回開催を約束しているのです。その意味で、五條運営部長の「裏切り」行為です。

理由として、①教室ごとのミーティングに部課長がはいり、会社の決定を伝え、下からの意見を集約するから不要であり、②交換会の意見は一部のものだからと不適當としています。

○ 「運営意見交換会」の成果と必要性は誰の眼から見ても明らかだ！ ○

これは、前回7月に実施された意見交換会で、

①「進学コース」の現状が、短時間では学力が身につかず、合格させるために、計算テストの間違い直しや補習で、実態は「ライト」ではない。②講習時に、授業数が多すぎて、「営業」どころではない。③「計算テスト」も授業中のテストとの重複や返却また授業担当者へのフィードバックの問題点があり、しかも効果に対して経費がかかりすぎる。④算数授業数の減少（特に6年）こそ問題だ。⑤イベントの重複によるムダや日曜勤務により、休みが満足に取れない。⑥入試トライアルは志望校が他の生徒に知れてしまうし、運用が大変な上、子供たちの「やる気」をそぐ面もある。また、A登録があるのに志望校の再度の聴取がムダである。⑦桂校・桃山校の3年生の廃止は保護者へのネガティブなアピールになっている。京都の復活どころか廃校するような感じを受ける。⑧堺東校の移転は、場所が問題ではないか。

などの意見が出て、一定の改善が進みました。**一部ではありますが、いくつかの問題を解決できたのも「運営意見交換会」が労使対等の立場で、意見を出し合える環境にあったからこそ実現できたものです。**そして、議題に上がっている問題が発生した原因は経営陣が現場に意見を求めなかったり、部署ごとにバラバラにイベントなどを進めたり、現場の状況を把握しないことから発生している問題です。

○ 現場を知らずに、現場を語るな！ ○

運営意見交換会を実施する代わりに、教室ごとにミーティングをして意見を集めるということであれば、大きな間違いです。**会社の中での言動は「評価」の対象であり、自由な発言は保障されません。**これはひいては、全社的に「ことなかれ」主義が蔓延し、「尼崎脱線事故」を引き起こしたJR西日本のようなものではないでしょうか。鉄道で働く人たちは、乗客の安全輸送が使命でしょう。それが、「評価」を盾にした会社の強権的支配のため、現場での問題点は報告されず、「評価」のために無理な業務を遂行したのが、原因ではないでしょうか。この会社のやり方は、「集客」や「合格」と逆行するものになるのではないのでしょうか。

○ 現場から声を上げていきましょう！ ○

入試トライアルがこれまで廃止されなかったのは、浜野取締役の発案だからなのか？桂校・桃山校の3年生の廃止は副社長の発案だからなのか？計算テストが廃止にならないのは社長の発案だからなのか？このように、**現場を知らない経営陣が、現場と乖離した方針を決定していたのでは、この会社は危険**です。

この危機意識があるから、「運営意見交換会」に多くの意見が寄せられているのです。これは会社再建の最後の希望です。一つ一つの現場の声は小さいものだし、「一部」の意見でしょう。この声の一つにまとめて、会社に突きつけていくから「力」も生まれるし、「一部」の意見ではなくなるのです。私たち組合はそのまとめ役になるため奮闘していきます。皆さん、しっかり「声」をあげていきましょう。まずは第一歩として、私たちに意見をお寄せください。共に頑張りましょう！！